

5. 総括

今回の環境家計簿モニターで実施した、エネルギー消費量、エコライフ度診断及びアンケートの集計結果から、環境問題や省エネ行動に対する意識が高まっていることは確認された。しかしながら、一方ではこれらの行動が実際に、二酸化炭素排出量の削減に直結しているかどうかは把握できなかったため、次年度以降も継続的な調査・解析が必要とされる。今回のモニター事業を通じて明らかとなった課題及び今後の方針について、以下に整理した。

5.1 課題

環境家計簿をつけることにより、応募者本人や家族の省エネ行動に対する意識は高まったものの、これらの意識の変化が、実際に家庭からの二酸化炭素排出量の削減に結びついているかどうかは把握できなかった。

環境家計簿の使い勝手や内容について、好評な意見を多く頂いた一方で、ごみに関する内容の不足や物足りなさを感じたという意見も寄せられた。

5.2 今後の方針

実践的な取り組み行動と効果の検証

本年度のモデル事業で配布した「エコタップ」について、モニター応募者よりその取り組みやすさが好評な意見があげられた。このことから、効果的で実践的な取り組み行動の一つとして、次年度のモデル事業における家計簿モニター全世帯に対して「エコタップ」を配布し、その取り組み効果について検証する。

調査の継続実施

二酸化炭素排出量の削減効果を把握すべく、今後も継続してモニター事業を実施し、比較評価するためのデータを蓄積する。

環境家計簿の内容検討

家計簿のチェック項目や期間、「ごみ問題」に関する話題など、環境家計簿の内容について検討する。

データ分析

二酸化炭素排出量の多いガソリン及び電気のエネルギーに注目し、より詳細な分析を検討する。また、省エネ機器等を使用した場合の二酸化炭素排出量の削減量について、費用対効果等の定量的な分析を検討する。

普及・啓発

本人や家族にとどまらず地域社会へ広く環境家計簿を普及させるため、ワークショップや自治会、学校などを通じて、普及活動、情報交換の推進を検討する。また、商店街の個人商店や企業など、事業者も含めたモニター募集について検討する。さらに、モデル事業を通して削減効果の得られた具体策等については、兵庫県全域へ広く普及・啓発する活動を推進することとする。